

1: 出席者

加藤^a・大西^b・千葉・能登・平林・岡部・大塚^c・吉田^c・セルゲイ^c・須田^c・鈴木^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- ワーキンググループ報告(第 7-9 回、別紙参照) (能登)
- 7 月 5 日(火) に片倉氏(原研核データセンター長)に講演して頂く (加藤)

3: 議論

- 年報について
 - DARPE の詳細マニュアル(英語) はページ数節約のため 2004 年度の報告書に含めないこととする。詳細マニュアルの URL を簡易マニュアルに記述する。
 - 報告書で使われている名称について
実験研究者、はがきの送り先などの対外的な名称としては、日本荷電粒子核反応データグループ(JCPRG) を用いる。
- NRDF マスターファイルの修正について
 - 誤ってコードされた INC-ATH を INST-ATH に置き換えたことを承認する。
(D1490,D1552,D1557,D1578,D1579,D1583)
- 新規コードについて (以下の 1 コードを承認)
 - A (H 型辞書) : Mass number
- 修正コード
 - TOT-XSECTN : 現在 Obsolete であり使われていないので H 型辞書からは削除 (PHQ などに使用できるように、V 型辞書には残す)
SIGMA が Total cross section で、XSECTN が cross section と展開されており、混乱が生じる可能性がある。継続議論とする。
 - (DELTA-)POL-TRNSF : (Error in) polarization transfer : H 型辞書からは削除 (ヘッダとしては、より限定的な物理量を使用する。PHQ などに使用できるように、V 型辞書には残す)(承認)
- D1886, EWSR : 展開形やコードに fraction という言葉が必要という意見があったがワーキンググループでは入れないという判断を行なった
これまでの EWSR の使い方を調査し、その結果を見て判断する (差し戻し)
対処法としては以下が考えられる
 - ◇ EWSR のコードを EWSR-fraction とする
 - ◇ EWSR の展開形を Energy weighted sum rule fraction にする

4: 次回

2005 年 7 月 11 日 18:30~